

新山協ニュース

第1号

新潟県山岳協会

発行者 鈴木 敏雄

所感

協会長

室賀 輝男

内藤前会長の後任に四月の評議員会で、会長に選任され、その重責に身を引きしめ、協会運営に皆さんが何を望み、何を期待しているかを心静かに想っています。

さて、新潟県が上・中・下越・佐渡と地域は広大で、山岳にも恵まれ、地形的にも歴史的にも住民と山との結び付きは深く、それだけに古くから山の先人が多く、自然との間に培れた立派な伝統と気風ができています。

全国的にも、他のスポーツと比べ新潟県の登山活動は、質的・量的にも上位にランクされています。

各山岳会の窓口を預る県山岳協会は、初代会長、藤島玄氏が創立以来の指導理念とされた。越後山岳の伝統をふまいた気風と体質が確立され、歴代会長により更に肉付けさ

れた。名実ともに新潟らしきを持った協会に成長した訳です。

ご指導、ご協力を心からお願ひします。

津南山岳会
下越地区担当理事
平田 大六

この意義ある協会に加盟し、運営する各山岳会・理事は大きな誇りを持ち、一体とな

新潟県山岳協会の役員紹介

上越地区担当理事
橋本 正己
高田ハイキングクラブ
高田 慎一
中条山の会
五十嵐 力
関川村山の会

て協調し、先人の残された足跡を土台に、更に新しきを求めて、飛躍を図りたいものです。

会 長 室賀 輝男

副会長 望月 刀

副会長 小林兼一郎

副会長 三條秀峰山岳会

副会長 新大山の会

副会長 高橋小一郎

副会長 三條工業高校

理事長 鈴木 敏雄

理事長 下越山岳会

理事長 新新潟地区担当理事

理事長 曾山志計雄

理事長 新潟峡彩山岳会

理事長 笹川 和雄

理事長 高嶺グループ

理事長 山田 一男

理事長 分水山岳会

理事長 中越地区担当理事

理事長 藤井 信

理事長 長岡ハイキングクラブ

理事長 桑原 悌治

監事 小関 恒夫
監事 徳長 正
監事 新大山の会
監事 長岡ハイキングクラブ
監事 杉原八百樹
監事 下越山岳会
監事 遭難対策委員会々々
監事 藤井 洋

指導員会々々

指導員会々々

指導員会々々

指導員会々々

指導員会々々

の会
事務局

新大山の会

名譽・第一種・第二種・地区) のでなければならない。
全員出席して下さい。

長岡市学校町一丁目12-23
TEL〇二五八一

三二一〇四二八

新潟連絡所

新潟市宮所通一番町

TEL〇二五二一

二二一九八七〇

下越連絡所

新発田市中央町一丁目

TEL〇二五四二

二二二九二八

上越連絡所

上越市五智四丁目

TEL〇二五五一

四三一三九一〇

指導員会だより

杉原八百樹

いろいろ都合で延々になつておりました。指導員総会と検定会を併催して、実施することに準備をすすめていますので、指導員の有資格者は

一、指導員会総会

日時 七月十二日・十三日

(土・日)

一泊二日

十二日 午後六時集

合総会

十三日 研究と実技

指導

集合場所 土樽山の家

実技指導 土樽山の家周辺

一、指導員検定会

(第二種指導員・地区指導員)

日時

七月十二日・十三日

(土) 一泊二日

集合場所 午前十時、土樽

山の家

実技の場所 日白山周辺

一、第二種指導員受検資格

新潟県山岳協会の加盟団体の

の会員であつて、二十五才以

上、山歴七年(冬山経験五年)

以上のもので、加盟団体に現

に指導的立場にあり、知徳円

満にして、活動意思のあるも

クラブとサロン

藤島 玄

”爺さ、なにいうがんだろ、

まあ急ぎなさんなすぐ判るか

ら、クラブ(興味・娯楽・研

究など、共通の目的をもつ人

々の継続的な集り、またその

ための集会所。

2クラブ 太い棒、ゴルフで

球を打つ棒。トランプの札、

黒い三つ葉のクローバー形の

マークのついた札、棒の変形

で農民を表わす。

3記者クラブ 官公署などの

報道各社の記者の集り、又そ

の詰所、記者の親睦と共同会

見など取材の便をはかるのが

目的。

4社交クラブ 社交を目的に

作った継続的な集り、又その

集会所、転じてキャバレーな

どの異称。

5クラブ活動 特別委員活動

の一領域、生徒が教科外に各

種のクラブを組織、自発的に

研究や運動を行なう活動。

お判りかな、では次のサロ

ン。サロン(仏客間・応接間・

社交室・本来は美術品を飾る

部屋の意。

2上流社会の集りで、文化的

な社交の場、十七世紀にフラ

ンスで芸術家や学者などが上

流社会の婦人と優雅な談合を

楽しんだに始まる。

3美術団体の定期展覧会を云

う。お判りかな、では例をあ

げる。

岐阜山岳会は岐阜マウンテ

ンクラブ(倶楽部)だ。クラ

ブハウスがサロンだとすると、

サロン梁山泊、格は落ちるク

ラブトンチヤンはどうであら

う。

われわれの属する山岳会は

どうやらクラブ1は当たってい

る。財団法人でも社団法人で

もない。ここで法律語による

法人の定義はやめるが、とに

かく社会的には一向に罪のな

い人の集まりで、たらかして

巻上げる話や儲話に夢中の亡

者たちの来るところでないら

しい。いくなえば無償活動か

無償労働を喜ぶような高尚な

る登山趣味をもつた連中の集

りだ。それが研究となると甲

論乙駁、百家斉放、蛙鳴蝉喋、

百家争鳴、大いにやるべしだ

が、銭にならん話ばかりで雲

散霧消となつて結構、結構で

ある。

銭の話が出たから書くが、

クラブを目的へ進め維持して

行くのに銭が入る。会員は約

束にしたがつて、吾を勝にと

人より先に会費は納めてくれ

借りた物は返せ。時間はよく

守ることなんかで、会規三則

くらいで足りたらクラブは大

成功だが、問題は4の社交ク

ラブで足踏みするか、5のク

ラブ活動に飛躍するかだ。こ

の辺に統括するチーフの頭と

腕がいる訳だ。

前記の定義はクラブなりサ

ロンの運営にふれていない。

どちらにしろチーフの役は大

変なものだ。メンバーの顔色

をみて飲物を出したり引込め

たり、尻拭いの後始末まで面

倒みたうえに、できるだけ悪

い顔はみせたくない。それを

いいことにして自己顕示のあまり傍若無人のふるまいも、根が善意の人だと情状酌量してやらねばならない。そうなるクラブの進行は杆余曲折、試行錯誤あつちへふらふら、こつちへふらふら、あつと気がついた時は二律背反のジレンマの板ばさみになって、両方から一向に軽蔑されるのがおちだ。

日本では、というよりわれわれの間にはクラブでもサロンもよく育っていないし稔っていない。いっそ昔の五人組のように責任を上から押付けられるか、損得の明瞭な頼母子講とか無尽講のように経済が絡んでくると仕事がやりやすいのだ。善意の人の集まりをいいことにして狡猾な奴や横着の奴もいる。取るもの取って貰うもの貰うともう出てこない。食い逃げ飲み逃げ無銭飲食の徒である。こういう輩は吊し上げにして自己批判をさせるか、断呼除名か退会処分にするに限る。類は友を呼ぶで、そうした連中には結構仲間があつて心配することはない。遠くで虚勢を張って吠えてけるから。

とんだクラブ、サロン談議に脱線した。要は、地域研究に徴したクラブ、サロンを構成したいからだ。各クラブのチーフはメンバーに見えない苦労をして、多くの犠牲をはらっている。それが判るようになぜネレーションを育成しなくてはならない。それが単なる山におけるテクニクだけだとすると炭焼きの方がよっぽど優秀であろうし、事実また強いのだ。

クラブは新人をいくらでも入れればよい。伝統のあるクラブをよりよくする新人を、大に成長させねばならないからだ。

第三十回

国体県予選会報告

徳長 正

第三十回三重県国体の山岳競技に参加する予選会が、5

月4日、5日の両日、弥彦山塊で一五〇余名の参加で盛大に実施した。国上山から称彦山・角田山の全山主稜縦走のコースは、全行程三十軒に及び、その半分が敷道で、今回の山行のために西蒲原地区の山岳会で、昨年からの道刈に汗を流して切り開いた国体道だ、新潟県の予選では始めての低山、藪山コースで、それなりに選手諸君の取組態度に当惑が感じられた大会であった。梅雨を思わせる空模様の中、弥彦村体育館には参加選手、役員がぞくぞく集る。花井会長さん始め、地元山岳会の方とが会場づくり・受付・配車と手ぎわよく万事順調に進む。定刻開会、参加一五〇余名の男女は、地元来賓のほげましの言葉に意を強くし、全員貸切バスで国上へ向う。

角田山頂へ近くなると天気も本番コースに入る。山道は鉈目が入り、指導標が良く整備され、何んとも心地よい。猿ヶ馬場のゲート附近から雨は本格的となり、日本海から吹きつける風雨で全身ずぶむれで寒さで止っていられない。弥彦山頂はさすが雨のため観光客の姿はなかった。一等三角点の多宝山から石瀬峠は交字通りの敷漕ぎである。間瀬のキャンプ地到着は午後六時過ぎ日も暮れかかっていた。地元山岳会の設営班が切角張ってくれたテントも全身ずぶぬれで明日の山行を考へ教育長さんの計画で間瀬小学校へ移動する。ストープと湯茶の接待を受け思い思い疲をいやし、思い切り足を伸ばす。パーティーテストで本日の日程は終了する。

第二日目は六時、お世話になった学校の職員に見送られ出発する。天幕を徹収、樋曾山へ登る。此処から角田山までの稜線は本当に長かった。角田山頂へ近くなると天気も漸く回復、整備された山頂で昼食、眼下に佐潟や西蒲原の町並が見下ろされると急に里心がつく、疲を忘れ一気に角田浜へ下る。貸切バスで一路称彦の体育館に向う。地元山岳会、村民の暖い接待をうけ、委員長、チーフリーダーの講評で予選会を終了した。山、高きか故に尊からずをしみじみ味った山行であった。

山岳情報

① 飯豊山赤谷口

五十嵐篤雄

今年は何年と比して、雪が少なく、加治川ダムまでの車の整備が捗り、五月二十日には車が入る状態になっている。

旧飯豊鉾山付近に防災ダム建設のため、工用の大型トラックが頻繁に往来していたが、昨年の秋、竣工したため通行止め等の、わずらはしさが一切なくなった。

昨年の豪雪で湯ノ平山荘が潰れ、登山者に迷惑かけていたが、今年中に新築する予定で段取りを進めている。しかし、竣工が今秋頃になるため約二〇名程収容できるプレハブの小屋を建て、便宣を図ることにするが、七、八月の混

雑する時期は TENT を張る、
覚悟できていたきたい。

北股川吊橋は、五月末に架
け終り、例年の通り十一月四
日に外すことになっている。

② 近頃の山感

小野 健

山も年々オカ随分と様相を
変えて云て、いつも変らぬ自
然など昔の語らいになりつつ
ある。

よし悪しは別として、人が
押し寄せる山は益々アプロ
チが短かくなって、車が人が
人を招く、山が万人の共有物
であるとしたら、この山の混
雑を敷くのはひとりよがり
というものだろう。自然保護
観光か等と論じて、所詮水
と油の次元であれば、いづれ
接触面のバランスを考えてゆ
く以外に出逢いの道はない。
しかし、こんな面倒さから
は、およそ縁のない山も末だ
たくさん残されている。私共
が開いた梅海の自然もそうで

あるが、頸城の前衛の山にも
特に孤独な佳さがかくれてい
る。

明星を知っていても、清水
山を知る人は少ない。赤禿山・
真那板山・戸倉山・善光寺山
等々、いづれも千米にも満た
ない低山なれど、
人類の歴史の足跡がかすか
に漂う静かな自然が感じられ
る。

新雪を踏み、残雪を追い、
新緑を吸い、藪を漕ぐ。頂上
の立木の枝間から見る展望も
また楽しいものである。

県民

スポーツの日

葡萄鼻親睦登山会

清野 正二

毎年六月の第一日曜日に、
新潟国体を記念して行われる
親睦登山を、今年は全県一会
場にしばり、会期を六月十四
日、十五日とし、新潟峡谷山
岳会と関川村山の会の協力で、
若葉薫新緑の葡萄鼻で、県

下各山岳会の六十余名の老若
男女の参加で行はれた。宿泊
場所の梁山泊に向けて、夕方
会員がぞくぞく車で集結し、

梁山泊二階建の立派な小屋で
内外の整理は気持のよい程行
はれていた。此処まで建築材
料を担き上げた山男の心意気
に頭が下る。屋外では焚火が
たかれ、大鍋に煮物がつくら
れ、やがて参加者全員で親睦
登山その一の行事、酒もりが
始まる。自己紹介・山岳会紹
介・唄・自慢話・久し振りの
対面で仲間同志の尽きない語
い。十二時近くまで交換会が
つづいた。翌十五日は小鳥の
ついで目をさます。八時朝食、
小屋の脇に湧く清水は一寸得
難い良質の水場だ。加藤勝義
氏をリーダーとする一隊が立
烏帽子の岩壁でロッククライ

ミングを始め。下から双眼
鏡でのぞく野次馬もある。急
な登山道を三十分余りで立鳥
帽子の頂上に着く。杵差山の
絶好の展望台だと聞いたのだ
が、中腹から上はガスで見え
ない。十一時小屋を出発、途
中は山菜の豊庫だ。アンニン
ゴ・山葡萄・フキ・山アスパ
ラ・ワラビ・ミズナといくら
でもある。忽ちリュックは満
たんとなる。荒川温泉清流荘
で入浴、昼食後開散となる。

五月

理事会報告

日時 五十年五月二十七日
場所 新潟学生書房
議事

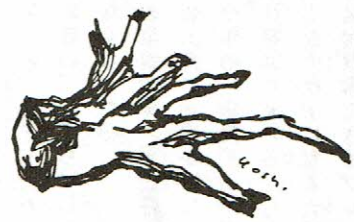
- ① 国体選手の選考について
- ② 六月・七月の行事について
- 報告事項
- ① 昭和五十年度日山協総会報
- 告(井口氏) 日本山岳協会長

に渡辺公平氏が決定された旨
報告あり。

指導員について

杉原八百樹

日本山岳協会の指導員制度
について、会員各位の認識の
欠ける点が見られるので、日
本山岳協会発行の登山指導教
程からその要旨を抜粋記載す
るから、指導員の立場にある
人、これから指導員の資格を
取得しようとする人の再認識
をお願いする。尚指導員規程、
指導員認定規約は、日本山岳
協会発行の山岳手帳に記載さ
れているから熟読されたい。



社団法人日本山岳協会指導

員規程の要点を抜萃すると、

第一条 指導員とは安全、確

実にかつ楽しい登山を指導で

きる人でなければならぬ。

第二条 指導員は登山界のリ

ードオフマンたる自覚を持ち、

常に一般登山者の指導と登山

マナーの養成に心がけ、その

範となるよう務めると共に、

正しい登山技術の指導普及を

図り、技術と道徳の向上によ

って登山の興隆発展に務めな

ければならない。

第六条 指導員は、名誉指導

員・第一種指導員・第二種指

導員の三種類とする。

(イ) 名誉指導員は年令六十才以

上で、第一種指導員の実績を

有する者でなければならぬ。

但し、第一種指導員の実績を

有したいものであつても、総

会の決議によって特に推選さ

れた者については、名誉指導

員とすることが出来る。

(ロ) 第一種指導員は年令三十才

以上六十才未満の者で、第二種

ればならない。

(イ) 第二種指導員は、年令二十

五才以上の者で、協会の委嘱

を受けた所属岳連が主催する

検定会で認定された者でなけ

ればならない。又、これらの

認定については、名誉指導員

は協会々長の認定によって指

名され、第一種指導員は第二

種の検定を経ているので、実

技を課せず、その都度定めら

れた論文を徴し、協会々長の

指名によって構成された。名

誉または第一種指導員5名以

上の検定委員会が審査、常務

理事会の議を経て協会長が認

定する。この検定は年一回で

ある。

(イ) 第二種指導員は、登山の実

技・指導法・理論等について

実施し、第一種又は名誉指導

員三名以上が検定員となる。

実施の結果は所属山岳協会長

が理事会又は、これに代る機

関で審査の上、適格者を選定

して、協会長宛認定申請をす

る。



協会事務局

よりの連絡

見本は事務局にあります。各山岳会で配りまとめ七月末日まで事務局へ。

⑤ 文部省主催 一般山岳団体指導者夏山研究会が七月二十四日～三十日まで、立山の国立登山研究所、剣沢周辺で行われる、参加資格は各山岳会の中堅の男女で、県協会の推せんするもの、参加費六、四〇〇円と交通費は各自負担、申込みは七月五日協会事務局まで。

⑥ 新潟県登山祭、恒例の称彦燈籠神事に協賛して行う催も今年で二十二回を迎える。東京から金坂一郎氏を講師にお迎えして行います。多数の参加をのぞみます。とき七月二十五日午後六時、称彦山頂集會、下山後称彦体育館で懇親会を行う。

⑦ 登山実技講習会、初心者を対象とした岩登りの基礎講習会を七月十二日～十三日土樽山の家泊りで行いけす。参加者は一泊三食三、〇〇〇円と交通費実費、申込みは七月五日まで協会事務局へ。

⑧ 第二種指導員検定会を七月十二日～十三日土樽山の家でを行います。第一日茂 登山、第二日毛渡沢で沢・岩の基本について検定が行われます。

⑨ 第三十回三重国体選手が五月二十七日の理事会で決定しました。各選手の健闘を祈ります。

監督
山崎 幸和(越後吉田山岳会)
成年の部
長谷川晴一(越後吉田山岳会)
川崎 吉明(分水山岳会)
丸山裕一郎(新潟県山岳会)
少年の部
山口 秀康(水原高校)

下山 正義(新潟工業高校)
地津 孝夫(長岡工業高校)
⑩ 全国山岳遭難対策協議会が七月十四日～十五日湯沢町グランドホテルで、登山による遭難事故を防止するため、山岳関係の指導者や遭難関係者の参加で遭難の原因等について研究協議し、今後の遭難の具体策をたてるものでその成果が期待される。

⑪ 会費納入についてお願い

⑫ ヒマラヤのカラー絵葉書六枚組(二〇〇円)販売します。

⑬ 海外登山隊に対する推せん状およびそれに類する書類の発行手数料は一件につき五万円に改定する(六月一日より)

⑭ ネパール七五年プレ登山隊申請については、ネパール政府から通知により、日山協への書類提出期限を六月二十四日迄とします。

⑮ 全国遭難対策委員会議を七月十九日～二十日、立山の登山研修所で開催する。参加者は協会長の委嘱する者で、(イ)登山届 計画書の全国統一フォーム、(ロ)救急法の普及について(救助に関する身分保障)についてが討議される。

⑯ ヒマラヤのカラー絵葉書六枚組(二〇〇円)販売します。

各山岳会分担協会費の納入期限は六月末日です。事務局までお忘れなく。尚四十九年度未納団体は六団体あります併せて納入下さい。

⑫日山協山岳遭難共済保険について多数の加入を載きました。事故のたい安全登山を心から祈ります。

山岳会紹介

関川村の会

平田 大六

会は十五年ほど前の創立である。私が、だれでもそうなるように、北ア・谷川などに入っていたころだ。当時、越後下関駅に勤務されていた。坂井厚さん（JAC越後）が、ザックを背負った私の切符にハサミを入れ、「大ちゃん」よせい行かんでも村に山がたくさんあるよ」とよくとがめてくれた。そして、関川

村山の会は、坂井さんの尽力で結成された。

若い会員が、村外の山にも行きたい騒いだことがある。千代さんや、竜さん等と、謀りごとをめぐらし、最盛の日曜日、彼等と谷川岳の西黒尾根へと追いあげた。最初ははしゃいでいたが、つきない人の列と悪臭で、どこでもすぐ寝れる大石路とは全然その風情がちがう。村の彼女等は、あわれ小用すらできない。帰りの汽車の中、やっぱり秋差がよいと云ってくれた。

妻帯会員は、家庭生活との両立に苦しむ。所詮、登山は道楽だから、理解させるか、だます以外はない。

村には毎夏温泉の花火大会がある。私たちは、一番よく見える場所にサジキを作り、家族全員同併の生ビール大会を続けてきた。女たちは、重箱にそれぞれ腕をこらした料理をもちより、子供達にジュースを飲ませて、花火にうつ

りしている。私たちは、ビールをおおって花火を背をむ

けバカ話となる。子供たちが司会をして酔った父親に歌わせることもある。

その後、幾日も、女たちは、家庭に理解のある関川村山の会を「すてきなグループ」だと思いつけることになる。

四十九年から、会では女川の源流踏査にのりだした。二代目の若い会員が、岩にとりつき始めてきた。登山手段としての岩の技術の重要性を語り、「けっしてトビ職だけのせまい岳人に終るな、トビや飯炊き、ラッセル屋を、手足のように使えるリーダーになれ」と説いている。

あとがき



協会報の「越後」は例年通り発行いたしますが、協会会員の唯れでもが、気軽に寄稿していただくもので、銭のからないニュースを年に数回発行することになりました。

云うなれば、協会会員の「コミュニケーション」的なものを考えています。

格調高い内容の原稿はもとより歓迎いたしますが、むしろ、日常考えている身近の雑事から、山の遭難事故・自然保護などの大きな問題から、各山岳会の情報交換や動き等を含めた、共通の関心をよぶような内容。一回限りの紙面で終ることなく、丁度、水面に投げた小さな石の一点から

広がりゆく波紋のようなテーマを望んでいます。

読者の皆様から執筆者の指定やテーマについての要望もどしどしご連絡下さい。

手腕もセンスのないものが最初から大きなアドバルをあげてみてはしまりませんけれど、願はくは会員全体の広場にしたいと思えます。

第一号のニュースは発行期日の関係と寄稿依頼の不手際も重なり、ご寄稿をいただいた原稿をそのまま羅列したまま発行するはめになりました。深くお詫びいたします。

編集責任者 藤井 信

